

行政視察報告書	
委員会名	建設環境委員会 特定事件「交通行政について」
派遣委員	委員 8 名 【出席委員】 広田丈夫委員長、木村忠義副委員長、堀込彰二委員、菊地慶太委員、吉沢哲夫委員、白石孝雄委員、関一幸委員、鈴木由和委員
日程／場所	令和 6 年 8 月 2 日（金） 茨城県常陸太田市「交通行政について」
目 的	2024年問題、ドライバー不足など交通行政に対する課題解決のために、自動運転バスの実証実験を行って実用化するとともに、短期間で複数のバスを路線バスに一本化するバスの再編成を行うなど、常陸太田市の取組について、本市における交通行政施策の改善のため調査・研究した。
各委員からの報告 (内容、所感(意見・課題・本市への反映など))	○広田委員長 自動運転については、常陸太田市では現在レベル 2 で、運行。今年までにレベル 4 を目指しているとのことでありました。運転手不足の解消という面では、有効的であると感じましたが、速度、乗りごごち、コストなど課題が多く、草加ですぐに実用は難しい。 常陸太田市はバス路線統合を行っていましたが、縦割り行政を解消、横断的な対応を行っており、1 年半に市民との話し合いを160回以上開催していました。この丁寧な対応は見習うべき。 ○木村副委員長 1. 視察内容 今回の視察研修では、常陸太田市にてレベル 2 の自動運転EVバスに実際に乗車する機会を得ました。このEVバスは定員10名（オペレーター含む）で、小型バスに分類される車両です。運行は決められた区間内で、速度は18km/h 以下での運行となっていました。 乗車中には、特に停車時のブレーキに関する課題が顕著であり、現在も実証実験の段階であるため、今後の改善が期待されます。 乗車後には、常陸太田市職員から、パワーポイントを使用した市内公共交通に関する説明を受けました。 2. 常陸太田市の課題と解決策 常陸太田市では、路線バス、通院バス、コミュニティバス、スクールバスなど、異なるサービスが重複運行している状況がありました。このため、公的負担が増加するという課題が発生していました。 この課題に対して、常陸太田市は市内公共交通の再編を行い、路線バスに集約（混乗化）することで、運行の効率化を実現しました。また、輸送に係るリソースの効率化と公的負担の抑制を成功させました。 3. 草加市への示唆 草加市において、今回の視察で乗車したレベル 2 の自動運転EVバスの運行は、現時点では難しいと感じました。特に、限定的な場所での利用に留まり、市内全体での運用は現実的ではありません。 一方で、無人走行が可能なレベル 4 の自動運転EVバス「EVO」については、草加市での交通行政における可能性があると考えます。 4. まとめ 今回の視察研修では、自動運転EVバスに乗車することで、草加市での交通行政における課題を体験的に発見することができました。また、常陸太田市の課題解決方法や新たな気づきを得ることができました。 今後、この研修で得た知見を活かし、草加市の市政改善に取り組んでまいります。 ○堀込委員 常陸太田市の交通行政に対する前向きに取り組む姿勢は参考になりました。バスの現状を考慮して、市民に対し160回の説明を重ね、4 路線を一本化。市の補助金を改善。バスの自動運転の実用化は、常陸太田市と草加市の環境の違いを感じて、草加市での実用化には多くの問題を感じました。自動運転バスへの乗用体験は参考になりました。

○菊地委員

「公共交通の編成」の取組については、市民等の合意形成を図るために市民説明会を約160回行い、路線バスの統合及び乗車距離に応じた運賃の統一を実施した。その成果として、運行ルート・時間の重複の解消、移動手段による運賃の差異の解消、1km当たりの市の負担額の減少などを実現している。

市民に寄り添った丁寧な市民説明会による合意形成と再編による成果は参考になる取組である。

次に、「自動運転EVバス」の取組については、国土交通省の補助事業を活用し、市役所から商業施設の約1.6kmのルートで自動運転サービスの実証実験を行っている。

現状は、完全な自動運転（レベル4の無人バス）ではなく、1人のオペレーターが同乗し、時速18kmで走行している。

草加市内においては、自動運転バスをすぐに導入することは難しいと考えられるが、今後の自動運転バスの進化に期待したい。

また、常陸太田市では、自動運転EVバスを活用した貨客混載の実証実験を行い、物流システム構築の可能性の検証している。

今後の更なる発展によりドライバー不足の解消の一助になることを期待したい。

○吉沢委員

建設環境委員会では、茨城県常陸太田市に行政視察を草加市政に反映させるために実施した。常陸太田市は人口が年々減少、現在4万人余の都市で草加市の1/5程です。

交通行政に対する市民サービスの熱意は、目を見張るものがあり、年々市の税負担を軽減するため、バス路線の再編を実施。

市民サービスを統一（同一賃金）、市の負担を軽減させた。

さらに、自動運転バスは、過疎地域で国が実施し、市が公募に応じ現在レベル2で実施されている（試乗したが大変遅く、ガタガタ揺れ、危険を感じる）。

令和6年度には、レベル4も運行計画しているが、市民サービス旺盛で大変参考になるが、草加市には該当しません。（念のため、類似都市を参考にしてください）

○白石委員

多様な人々の移動手段として地域公共交通である路線バスは必要だが、運転手不足が深刻化している。そこで自動運転の実用化が注目されている。国土交通省によると自動運転はレベル0～5に分けられレベル2までは人による運転が主体で一部補助機能が追加される。レベル3以降はシステムが主体となる。

常陸太田市では、令和6年2月からレベル4完全無人運転対応の自動運転EVバスをオペレーターが乗車するレベル2で市役所から商業施設まで速度18km、乗車人数が10人で走行している。

私たちは、乗車した後に担当課職員の方から常陸太田市の取組について説明をいただいた。私の見解は本市を走行させるには速度や乗車人数、急ブレーキ時の対応など多くの課題があると感じた。まず18kmの速度では専用車線や追い越しが出来る2車線が必要となる。オペレーターが乗車する状態では今と変わらないのではないかと感じた。レベル4の走行の安全性が確認できてからの導入がいいのではないかと感じた。本市において今すぐに導入は難しいが確実に必要となる自動運転システムに、今のままでは多くの課題があることが分かったことは有意義な視察となった。

○関委員

本市の現状については、46系統の一般路線バスがあるが、交通不便地域の解消のため、これを補完する形でコミュニティバス（平成28年4月から2ルート、令和2年1月から1ルート、計3ルート）を運行している。しかしながら、全国的な課題「自動車運転手の労働時間等の改善のための基準」の改正に伴う2024問題、これに関連する運転手不足、リモートワークなど新しい生活様式の定着による公共交通利用者の減少など公共交通が置かれている状況は厳しいものになっています。

このことから、本市において運転手不足の解消につながると期待される自動運転バスの視察を行ったものです。

常陸太田市では、路線バス・コミュニティバス・患者輸送バス・スクールバスの4種類のバス路線を平成28年10月に統合し、効率的な運行と利便性の向上を達成し、走行1km当たりの公費負担を約181円から約168円へ減額する効果を達成。

自動運転バスについては、時速18kmで走行し、状況により異なるが1度の充電で約100kmの走行が可能である。また、オペレーター1名が乗車し監視する自動運転のレベル2であり、運転手不在での自動運転をするレベル4への移行を目指しているとのことである。

この自動運転バスを本市で導入すると①時速18kmでの走行について、本市の道路事情に適応することができるかどうかの疑問があり、②車両価格についても1台あたり7,000万円～8,000万円とのことであるが、この価格をどう捉えるか。また③現段階での技術水準について、車両はレベル4対応の車両であるが、現在における走行実態はレベル4に達していない状況であることから、発展途上の技術であると思われる。

これらのことから、本市と状況が異なるため、それぞれの地域性に見合った公共交通網の整備が必要であると考えます。

○鈴木委員

常陸太田市の公共交通バスの課題として、路線バス、コミュニティバス、患者輸送バス、スクールバスが異なるサービス水準で、同じルート上を運行しており、しかも市の負担額の増加が、課題としてあったため、統合の必要性を感じ、路線バスを統合することで、運行の効率化、市の負担抑制を実現させたとのこと。自治体によって実情は違うが、今後草加市においても再編等の取組が必要となった場合には、常陸太田市の取組内容は、参考になると思う。

次に、自動運転EVバスについて、国や各種補助金等を活用して実証実験、実装運行に取り組んでおられ、現在は、レベル2（オペレーターが必要）だが、将来的にはレベル4（無人化走行）の実現に向けた取組を進めているとのこと。実際に乗車させていただいたが、定員10人（うちオペレーター1人）、速度は18Km/hと現段階においては、路線バスに代わる役割を担うまでには至っていない。さらに、車両や運行にかかるコストを考えても国主導のもと各種補助金なしでの運行は困難である。

現在全国的にバス運転手不足は、深刻な課題である。

将来的に自動運転EVバスが路線バスと同じように運行できる日が来ると思う。今日、自動運転EVバスを実際に乗車させていただき、現時点での状況を把握、体験できたことは大いに勉強になった。

最後に視察を受け入れてくださった常陸太田市の皆様には心から感謝申し上げます。

その他

